



厚生労働省編一般職業適性検査

厚生労働省編一般職業適性検査 (GATB) の活用

自分に合った「職業選び」のために

自由ヶ丘学園高等学校

教務部進路指導主任

笠間陽弘

1 自己理解・職業理解の促進

生徒一人ひとりに合った進路を選ぶためには、個人の持つ諸特性と希望する進路がどれくらい適合しているの

かを考える必要があります。しかし、近年の傾向として、「やりたいことがわからない」「何をしたらいいのか考えられない」などと訴える生徒が多くなってきたように感じます。そのようなこ

とから、まずは自己をよく知り、次に職業を理解することから生徒一人ひとりが明確な進路目標を持つことへとつながっていくことが重要なことだと考えています。

自己理解では、自分の個性を理解したうえで、自分は将来何をしたいのかということを確認にしていけることが、社会との関わりを考える第一歩になります。そして、さらに自己理解を深め、職業意識を啓発していければいいのではないのでしょうか。

2 厚生労働省編一般職業適性検査(GATB)利用の経緯

本校では10数年前から同検査を活用しています。導入当初は就職希望者も3割近くおり、少しでも検査に慣れることを目的として実施しました。当初は検査自体に慣れることを目的としていたため、多くの生徒が検査結果をながめるだけで終わって



しまっていたように感じます。しかし、ながめて終わりというだけでは不十分です。職業の世界の成り立ちを知るとともに職業世界を探索し、検査結果から自分の特徴はどのような点にみられるのかをよく考えることが必要です。また、自分の将来について、どのような働き方・生き方をしたいのかを展望することも大切です。このような作業を通して得られる「気づき」から自己理解・職業理解が

3 現在の実施状況

GATBは2年生を対象として2学



期が始まってすぐに、進路実現の年となる3年生へのステップとして実施し、適性や能力を的確にとらえて現実的な進路決定へと結び付けていきます。

適性検査の大きな特徴は、職業世界についての情報が提供され、いわば職業世界の「のぞき窓」であることです。これを活用することによって、職業世界の理解促進だけでなく、自分の進路適性を理解することが可能になると思

います。

4 検査判定結果の活用

検査判定結果は先に述べましたが、

ながめて終わりとまらないよう、ロングホームルームの時間を進路学習の時間として利用して振り返り学習をしています。検査判定結果表は、本校独自の「進路ノート」(写真へ貼付して、キャリアパスを考えます。職業知識を涵養するために、1年次から興味や関心に沿って将来どんな職業、生き方があるのかを学び考えられるようにしています。この一連の流れの中で生徒は、各自のキャリアパスを再確認し志望校や志望先を絞り込んでいきます。

また、三者面談において検査判定結果を保護者に直接返却して、ご家庭での進路に対する意識も高めてもらうよう呼びかけを行っています。校内での活用はもちろんですが、二者面談での活用により学校と家庭との距離感を少しでも縮め、進路指導に対するご理解・ご

協力をいただくことで進路実現をより確実なものにしたいと思っています。

5 検査の効果

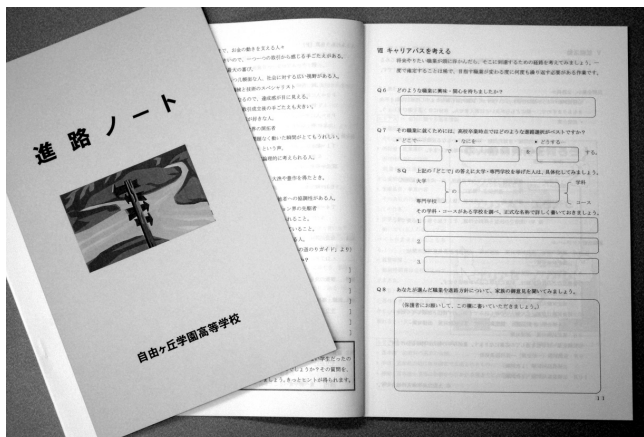
進路学習の時間に行う振り返り学習の様子を見ると、まだ作業的な学習の色彩が強く、検査の最大限の活用には難しさを感じますが、取り組みそのものはとても真剣であり、GATBでは、得意な面も不得意な面も含め、客観的に自分の能力や適性の特徴を理解することができているのではないかと思います。希望する進路を決めることは、将来の職業選択が絞られることになりませんが、文系・理数系、工業系やその他の分野のどれに向きそうかなど、様々な進路選択に活かすことができるツールではないでしょうか。

6 適性に合った進路へ

就職指導において、生徒の希望職種と適性が必ずしも一致しているとは限りません。1年次より職業観からの進路選択を促してきたものの、いざ進路先を決定するとなると現実的に考えられず、自分の理想で選択してしまいがちです。むしろ、適性から職種をきちん

にも感じます。適性とのギャップが大きいほど就職内定率が低いことは、近年の高校生の就職事情に顕著に表れているのではないのでしょうか。そんな生徒をいち早く抽出し、個別に再度GATBを実施し対応したことは、非常に効果があったと実感しております。

いかに検査判定結果を活用し、自分を再認識させ、自分の適性に合った進路先に促してあげられるか、気持ちを切り替えさせられるかがとても難しい点でもあります。それは大切なことで、GATBの効果が発揮される場面だと思います。



多様な職業分野で仕事をするうえで必要とされる代表的な9種の能力（適性能）を測定することにより、個人の能力特徴の理解の促進や適職領域の探索等、望ましい職業選択を行うための情報を提供することを目的として作成された。

■適用対象：中学2年生以上（13～45歳未満）の生徒・学生・求職者

厚生労働省編一般職業適性検査（進路指導・職業指導用）

GATB

General Aptitude Test Battery

GATB の 特 徴

GATBが測定している適性能とは、「これからその職業に就くための訓練や教育を受け、必要な経験を積んでいったとき、先々、その職業でうまくやっていくことができるかどうかという潜在的な能力」と言うことができます。潜在的な能力ですから「将来の可能性」を予測しているとも言えます。このような検査をAptitude Test（適性検査）と言います。これに対して、「現在」だけでは測ることができないのが、Achievement Test（学力検査）やSkill Test（実技検査）のよくなるProficiencyの検査（アチーブメント・テストと総称される）です。GATBでは、個人の持つ9つの適性能レベルを測定します。また、その結果と職業の世界を結び付けるために、職業と能力の関係を表した一覧表（職業領域別適性職業群一覧表）が用意されています。

仕事をするうえで必要とされる能力の種類により、職業を40のグループに分類し（適性職業群）、それぞれに必要な適性能レベル（所要適性能基準）を定めています。

この基準により、職業指導や進路指導において、多様な職業の中から、個人の能力上の持ち味を生かす職業を探索することができます。

GATBは11種類の紙筆検査と4種類の器具検査があり、合計15の低位検査（Sub Test）が組み合わさって構成されています。紙筆検査と器具検査の複合であることがGATBの大きな特徴でもあります。

● 9つの適性能（潜在能力）

機能	適性能	内 容	作業の例
認知機能	G 知的能力	一般的理解力、推理、判断力、応用力	状況を分析判断する、工夫したり、新しいアイデアを出す
	V 言語能力	言語的な理解力、文章読解、表現力	文章を読み書きする、言葉で伝達したり、説明を理解する
	N 数理能力	数的な処理能力、計算力、数的推理力	各種計算、集計作業、数量管理・分析、金銭管理などを行う
	Q 書記的知覚	文字、記号などデジタルデータの比較弁別、一般的な注意力	印刷物の校正、帳票の記載やチェック、表の作成作業などを行う
知覚機能	S 空間判断力	立体的、構造的な理解力、図面から実物をイメージする力	設計図を理解したり作成する、造形的な作業を行う
	P 形態知覚	形、図形などイメージデータの比較弁別力	裁断、切断、切削、取付け、貼付け、接合、組立等の作業を行う
運動機能	K 運動共応	目と手の共応、迅速で正確な動作を行うコントロール力	キーボードの操作、素早い繰返し作業を行う
	F 指先の器用さ	指先の巧緻性、細かい物を正確に扱う能力	精密作業、小さい物を指先で取り扱う作業を行う
	M 手腕の器用さ	腕や手首を使って物を巧みに扱う能力	ハンドルやレバーを操作する作業、道具を巧みに扱う作業を行う

適性能の意味とプロフィール

各適性能の意味をよく理解しておくことがGATBを活用するためのポイントです。個人のプロフィールを解釈し、検査結果を説明するときにも、それぞれの適性能がどんな意味なのかを知っていなければなりません。（左表参照）

適性職業群の考え方と適性能類型

GATBは個人の特性と職業の側の要因を関係づけてみるようになっています。職業といっても実に多種多様で、その一つひとつについて、個人の特性と関係づけていくのは不可能なことです。そこで職業を、その職業が必要としている適性のパターン（類型）によって分類しようという考えに立つて、職業を適性能の類型別に分類したのが適性職業群（Occupational Aptitude Pattern）です。次のような類型例があります。

GVN	法律、経営など、いわゆる文系の専門的な職業
GNS	同じく理系の専門的な職業
GVQ	事務、教育、編集などの職業
GNQ	販売、経理などの職業
GQK	OA機器オペレータなど機械事務の職業
GQM	看護、看護などの注意力が必要な職業
NSP	製図、測定などの職業
SP	デザインなどの職業
SPM	機械工作、造形の職業
SPF	手工技能の職業
PKM	組み立て、加工の職業
KFM	機械操作の職業

プロフィールのパターンは職業だけでなく、進路選択の参考にもなります。例えば文系、理系という分け方もあります。

文系 GVN または、GVQ
理系 GNS

もちろん、これはプロフィールパターン（類型）を解釈するときのおおまかな目安であって、そのパターンでなければ相応しくないというものではありませんが、個人の能力特徴として将来の職業選択の重要な情報でもあります。

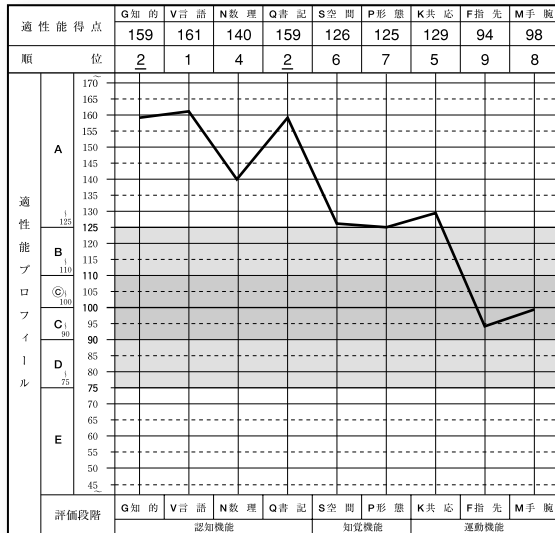
今はできなくとも学習や訓練によって将来でできるであろうという潜在能力ですから、特に若年者では、将来の進路や職業の可能性を広くとらえる意味で、適性能の把握は大変重要なものと言えます。

コピーライター

●社会人にGATBを受けていただきました

厚生労働省編一般職業適性検査

■適性能力点と評価



(株)プランダム
コピーライター
丸山智子さん (28歳)

大学の法学部政治学科を卒業後、出版社での編集業務を約1年経験。不動産広告制作会社に移り、アシスタントを経てコピーライターに。3年勤務の後、本年3月より現在の会社にコピーライターとして勤務。



大学時代、学園祭の実行委員を務めた丸山さんは、宣伝活動などに携わるうち、言葉によって人に楽しさを伝えることの魅力を知り、コピーライターとして働きたいと就職活動に取り組んだが、就職難の買い手市場の年でもありほとんど全滅。「卒業後5月になってやっとある出版社に入りました」編集プロダクション業務も行ってたその会社では、編集を中心に取材や原稿執筆などの仕事をしますが、丸山さんのやりたいコピーライターの仕事とは違って

た。1年後、やはり希望の職種に就きたい気持ちで募り、不動産関係専門の広告制作会社にアルバイトとして入り、一年半のアシスタントの後コピーライターとなる。そして経験を積む中で、他業界のライティングへの意欲も高まっていたところに、会社事情も重なり退職。そついった中でも丸山さんは自己研鑽を続けていた。「コピーライターの講座などには通っていました」そしてこの3月、広告代理店である(株)プランダムに入社。コピーライティング、企画づくり等にあ

丸山さんの職業適性判定

●得点が高く出ている適性能力

- 1位：V 言語能力
2位：G 知的能力／Q 書記的知覚
4位：N 数理能力

●適性能力が活かせると思われる職業例

VGQ：新聞記者、コピーライター、インストラクター、教員 等

VGN：マーケティングリサーチャー、イベントプランナー、人文科学系の研究者 等

コピーライターの仕事に必要とされる、言語的な理解力や言語を使いこなす「言語能力」、新しいアイデアを生み出すのに必要な「知的能力」が高く、「文字や数字の理解力が特に優れている」という特徴が見られる。仕事を通して、それらの能力にますます磨きがかかるとわれ、また「数理能力」も高いため、将来的には企画等、職域を広げていける可能性も秘めている。

「私自身、社会人として5年ほど経験してきて思っているのですが、キツイ仕事でも、好きなことなら頑張れるのではないのでしょうか。また、これまでのすべての経験は何らかの形で現在につながっている、無駄なものはないかなと思いますね」

小さい頃は手製の壁新聞を自作したり、最近ではブログに書いた趣味の演劇評が知人の目に留まり、寄稿を依頼されたりしているという丸山さんは、言葉を推敲して文章を書くことで人に伝えたいという仕事に根付くから好きなのにお見受けした。

厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）の結果は、全体的に得点が高く、特に知的能力、言語能力、書記的知覚に優れ、コピーライターの所要基準点を完全に満たしていた。

「今まで好きだから、というだけでの分野の仕事に関わってききましたが、能力適性の面でも裏づけをもらったような気がしてよかったです」

昔から文章を書くことが好きではあったが、こういった形で客観的な指標を得ることはあまりなかったという。